

平成 29 年度第 1 回羽咋市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議録

日時 平成 29 年 6 月 28 日（水）19：00～21：40

場所 羽咋市役所 401 会議室

出席者

委員長：岩城 和男（羽咋市社会福祉協議会会長）
副委員長：横田 国明（羽咋市町会長連合会会長）
委員：松永 義民（羽咋市商工会理事）
若城 はる美（羽咋市観光協会協会理事）
澤田 英三郎（はくい農業協同組合総務部長）
西 孝志（七尾公共職業安定所羽咋出張所所長）
出村 太一（羽咋郵便局千里浜郵便局長）
安達 吏和（羽咋市教育委員会教育委員）
松山 智明（羽咋市校長会 余喜小学校校長）
大屋 英樹（日本政策金融公庫金沢支店支店長）
中村 史人（羽咋市銀行会：のど共栄信用金庫
七尾商工会議所経営支援課第二課長）
上田 清春（羽咋地域ライフ・サポートセンター羽咋事務局長）
小塚 泉（株式会社北陸中日新聞羽咋市局局長）
酒井 恵美（羽咋市青年団協議会直前会長）
岩城 和男（羽咋市社会福祉協議会会長）
河島 佳江（羽咋市各種女性団体連絡協議会会長）
轟 千栄子（NPO法人わくわくネットはくい会長）
新田 聡（公募委員：一般）
大門 留美（公募委員：一般）
欠席委員：横田 国明（羽咋市町会長連合会会長）
大林 浩（創和テキスタイル株式会社代表取締役社長）
稲垣 賢一（株式会社北國新聞社羽咋総局長）
北山 怜奈（公募委員：学生）
オブザーバー：青木 哲雄（石川県中能登総合事務所所長）
アドバイザー：高山 純一（国立大学法人金沢大学大学院教授）
市側出席者：備後 克則（総務部長 羽咋市まち・ひと・しごと創生本部事務局長）
若狭 義高（総務部次長 企画財政課長）
今井 史也（産業建設部長 農林水産課長）
川口 哲治（産業建設部次長 地域整備課長）
中田 裕之（市民福祉部長 健康福祉課長）

井上 和彦	(教育次長)
吉田 浩一	(総務課参事)
奥 利明	(商工観光課長)
山本 裕一	(6次産業創生室長)
八野田正光	(6次産業創生室特命参事)
和田 正美	(地域包括ケア推進室長)
清水 吉朗	(健康福祉課参事)
岡嶋 克己	(企画財政課課長補佐)
寺井 賢成	(商工観光課課長補佐)
片山みゆき	(地域包括ケア推進室室長補佐)
政氏 祥代	(秘書室室長補佐)
崎田 智之	(6次産業創生室主幹)
蓮本 義哲	(総務課主幹)
西村 美保	(地域整備課係長)
安達 崇	(がんばる羽咋創生推進室係長)
赤井ゆかり	(健康福祉課専門員)
森田 里美	(6次産業創生室主査)
能山 圭介	(商工観光課主任)
澤田 朋子	(総務課主任)
中島 一明	(羽咋市まち・ひと・しごと創生本部事務局局長補佐)
倉島穂乃佳	(羽咋市まち・ひと・しごと創生本部事務局主事)

会議傍聴者 : なし

審議事項

1. 開会
2. 委員長挨拶
(略)
3. 市長挨拶

委員の皆様方におかれましては、日中のお仕事でお疲れのところ、今年度第1回目の創生総合戦略会議にご出席賜りまして、心から熱く御礼を申し上げる次第でございます。また、日頃から大変お世話になっている金沢大学の高山先生、そして、石川県中能登総合事務所所長の青木さん、そしてまた金沢の方から、日本政策金融公庫の大屋支店長にもお越しいただいているわけございまして、重ねて皆様方に御礼を申し上げる次第でございます。

さて、今回は、平成29年度の第1回目の創生総合戦略会議ということでござい

ますが、基本戦略として、4つの基本目標があります。1つは、羽咋市内で安定した雇用の場を設けるということで、いかにして定住人口を増やすかということが第1点目でございます。それから2点目は、交流人口を増やして、移住・定住人口をいかにして増やしていくかというのが第2点目でございます。それから3点目は、若者支援ということで、若い人たちの結婚・出産・子育ての支援をいかにしてするかというのが3点目でございます。4点目は、時代に合った地域づくりということで、大きなテーマを掲げているわけでございます。

戦略につきましては、今年度は29年度と3年目です。今のところ、社会動態の人口、自然動態の人口、これが私どもは2020年に20,600人という、5カ年計画を立てているわけですが、これが達成されているかどうかということが一応目標でございます。今のところ、なんとか目標は達成しています。

ただし、その中身を分析しますと、自然動態は大変厳しいです。以前は大体、300人減少しているうちの150人が自然動態の減少、残りの150人は社会動態の減少ということだったのですが、今のところ、自然動態の減少は150人から200人近くになっています。自然動態というのは生まれてくる人と亡くなる人の人口の差ですね。それから、社会動態、こちらの方は逆に、今まで150人前後減少していたのが、今10人から20人のマイナスまで、逆に羽咋市に入ってくる人が増えてきております。なんとか自然動態の減少を社会動態の増加でカバーしているというのが実態でございます。今の段階では27年度、28年度は、この20,600人の途中段階ですけど、目標は達成しているということでございますが、29年度からは、自然動態はなかなか厳しいですから、あとは社会動態の方は、これからむしろ、マイナスからプラスへ持っていかなければという勝負の年になるのかなというのが私どもの見方でございます。

そういう意味では今日はいろいろと皆様方に現在までの検証をしていただいて、これからどうあるべきか、どうすべきか、どうしたらいいのか、率直なご意見をいただきたいという具合に思っております。

それから今日は、皆様方の前にお米があります。このお米は、ご存じのように、肥料は使わない、除草剤は使わない、殺虫剤は使わない、自然栽培のお米でございます。わずか1kgでございますけど、私どもは7/7の道の駅のオープンに合わせて、この自然栽培のお米、大豆、麦、野菜など、メインにして販売していこうという考え方をしているわけでございます。

自然栽培につきましては、ただ、道の駅で売るのではなくて、2020年に東京オリンピック・パラリンピックがあります。今は国の方もGAPという1つの制度があるわけですが、それに合わせて、国の方は、オリンピックで選手の皆様方に飲食してもらおうということで、日本のお米あるいは野菜、大豆とかそういうものがその基準に合っているかどうかということになります。私どもの自然栽培米をそこで

活用してもらおうというのが一つの目標であります。そして、その先に、今、佐渡でトキが放鳥されています。いずれは能登でトキが放鳥されたときに、しっかりと受け止める地面を確保しておく必要があるわけで、自然栽培につきましては、除草剤、殺虫剤を使わないですから、いずれトキを受け入れるという体制づくりも視野に入れながらやっているということのを頭の中に入れて、今後の自然栽培に対する思いを深めていただければいいのかなと思いますのでよろしく願いをいたします。

最後になりますが、この戦略会議の皆様方には大変温かいご支援とご協力をたまわっているわけですが、29、30、31年度までが勝負でございまして、今ちょうど中間期にある段階だということでございます。これからも皆様方の忌憚のないご意見を伺いながら、私どもは積極的にしっかりと地方創生に向けた羽咋市の活性化に頑張っていきたいと思っておりますので、温かいご支援をたまわることを心からお願い申し上げて、挨拶といたします。本日は本当にありがとうございます。

4. がんばる羽咋創生総合戦略の効果・検証について

(1) 平成29年度がんばる羽咋創生総合戦略の取り組みについて（備後総務部長）

それではまず、戦略会議を始める前に簡単にこれまでの振り返りをさせていただきます。本日みなさんに検証いただくということで進めて参りたいと思っております。

それでは、「資料1」というカラーの横版「平成29年度羽咋市の取組」という資料でございます。これに沿って少し振り返りをしたいと思います。

羽咋市の地方創生はここに循環システムと書いてございますが、まず、しごとをつくり、そこにひとを呼び込み、そしてまちに活力を与える、こういう好循環を持続していこうというのが意図でございます。その中心、シンボリックなものとして、道の駅のと千里浜がございまして、おかげ様で7/7にグランドオープン、開業の運びとなっております。これは単に施設の開業ではなくて、ここに出品をする産品、一次産品、お米とか野菜、それに伴う加工品、例えば自然栽培のお酒、唐戸山と命名いたしまして、今回発売をするというものもございまして、このように一次、二次、そして最終的に地域のものを地域で加工し、地域で売る、その出口としてこの道の駅を作りあげたものでございます。これも、地方創生の取組、平成27年、今年で足掛け3年目になるわけですが、その間にみなさんの発想で提案がされ、そして、この戦略会議の中でいろいろな方向付けをいただき、並びに昨年は検証もいただいたわけですが、そういうみなさんのご意見の中で、この循環がまわっているというものでございます。

1ページを開いていただきたいのですが、これは先ほど市長が申した通りでございます。羽咋市の人口が2060年には8,800人に激減すると予想されたわけでございます。2、3ページを見ていただきたいと思っております。人口減少が将来に及ぼす影響は、言うにおよばずでございますが、地域の活力が衰退をするということで

ざいます。そういう中で、羽咋市はこのままではいけないと、これからいろんな政策を、みなさんのご知恵をいただき、協力をいただきながら、人口を 13,000 人にまでくい止めたい、これは 4,200 人の、いわば、予想より増加を図ることが必要となります。この数字は、単に数字で見ればかなり厳しいです。13,000 人というのはかなり野心的な数字でございます。これを実際に実現するためにということでございますが、4 ページ、5 ページを見ていただきたいと思います。

国の地方創生の流れというのが全国的に増えてございます。一番左側の方から、平成 26 年度の補正予算、ここに補助率が 10/10 ということで、81,900 千円の予算が投入をされております。そのように 1 番、2 番、3 番、4 番、一番右側の赤いところが今年の予算でございます。事業費ベースで 1 億 900 万円、補助率がこの段階で 1/2 になりました。少し 10/10 から比べると自前でやりなさいということで、補助金ベースでは 5,400 万円の予算。トータルでこれまで 4 億円を超える事業を展開してまいりました。交付総額は 3 億 1700 万円でございます。その成果でございしますが、5 ページの方に少し書いてございます。これは先ほど市長が言ったとおり、人口でございます。最終的な指標は、人口減をいかにくい止めるかということでございます。目標人口が一番上の欄、黄色い所に書いてございます。向こう 5 年間でいうと、20,692 名という数字が書いてございしますが、この数字になんとかくい止めたいというのが目標でございます。

実績が、27 年、28 年出ていますが、3 段目の数字、差引でございます。これは、予想されたものよりも、32 名、40 名増える上振れをしてなんとかくい止めたという数字でございます。内訳は、自然動態、これは相変わらず苦戦をいたしております。しかし、社会動態、緑の部分でございしますが、これが、今 2 桁台それも限りなくプラスマイナス 0 に近い状態で推移をしている状況がございます。これは昨今の住宅政策、それから U ターン、I ターンの政策が功を奏したのも一部あるとこのように認識をいたしております。続いて 6 ページ、7 ページ、これは P D C A サイクルにより、やりっぱなしではなくしっかり検証して、そして方向性を定めて現実的な路線を進めてほしいという、こういう総合戦略、国の方針がございます。それに従いまして、本日のこの検証の場でございしますが、昨年度は、27 年度の事業検証をさせていただきました。その中で (2) 主な改訂内容というのがございしますが、改正後、一番下でございしますが、政策 7 指針、7 ページに出ておりますが、これが国の方針を勘案し、加えたということ、市の施策については、138 施策を少し精査してという、みなさんのご指摘もございまして、結果的に 117 施策という形で整備をさせていただいたところでございます。最後に 7 ページでございしますが、今後の進め方で、1 から 7 番目までの政策 7 指針というのが国の方針として示されました。これは、総合戦略のいわゆる深化、発展、拡充というものを図るために、それぞれ、まち・ひと・しごと、横の連携を図ってくれということでございます。キーワード

は、1番目の地域経済循環システム、経済を循環して自立化していく、2番目が、地域未来牽引企業との連携を図るということで自走できる組織、稼ぐ仕組みを作っていく、そういうことをございます。まさに一次・二次・三次、出口戦略として道の駅の地域経済システムの拠点として進めている、これが羽咋市のポイントであると私は思っております。

そういう中で、飛行機が滑走し、離陸する絵が描いてございますが、最終的な滑走路は平成31年で終わりでございます。この中で29年、ちょうど中間年でございます。ここで離陸できなければ計画倒れになります。そういうことで離陸できるようにということで、今ほど言いましたが、振り返ると道の駅が7/7にオープンをして、作った米、野菜、そしてお酒、ランチなどの加工品、この辺が、経済循環システムとして今離陸しようといましております。しっかり独立採算化を目指すというのが狙いでございます。あと、獣害対策のいのしし、ジビエでございますが、昨年は300頭、売上にして1,200万円の売り上げの実績が出るようになりました。

そして、移住者でございますが、当初27年度は12名の移住者を迎えたわけでございますが、昨年28年度は37名、合わせて50名の移住者が今までに羽咋市に移り住んで来られております。

そして、ふるさと納税、これは昨年度、約2億2000万円、その前の7000万円に比べると約3倍に増えております。このふるさと納税を地方創生に生かしたいということで呼びかけて寄付を頂いたものでございます。この寄付を活用して、今回市民の地方創生で協働でやっていただく市民団体に年間30万円、3年間で90万円を助成する、今年はこの予算で600万円の予算を20団体に補助できる体制を整えることができました。羽咋市の地方創生、みなさんの総合戦略に沿ってこういう形で今離陸しようとしている、ぜひ安定化、独立採算化に向けて安定飛行に移らせていただきたい、このように思っております。そういう中で今日協議をいただければ、誠に幸いです。

(2) 事務局説明

(3) 意見交換・まとめ (90分間)

各グループ (各部会) における質疑及び意見交換等の記録 参照

(4) 報告・発表

第1回部会報告・発表 (まとめ) 参照

※認定※ 各部会からの報告・発表どおり認定。

【委員長】各グループの評価は以上のようなとおりとなりました。それでは、

各施策の評価については、各グループの結果のとおりとしてよろしいでしょうか。

【各委員】(会場から「異議なし」の声あり)

【委員長】それでは、各施策の評価につきましては、各グループの結果のとおり本戦略会議で認定をいたします。

ここで、青木オブザーバー、高山アドバイザーからご意見並びにご助言等をふまえたご講評をいただきたいと思います。

5. 講評

【オブザーバー：石川県中能登総合事務所 青木 哲雄 所長】

まず、今年度は山辺市長さんのご挨拶や、事務局からのご説明もありましたように、5カ年計画の中間年度ということであります。改訂後の総合戦略にも記載がありますが、中間年度ではPDCAサイクルによって戦略の深化、発展をするのだと、そのためには、この戦略会議の効果検証などをふまえた本格的な事業展開を行うということになってございます。

具体的な施策の実施にあたりましては、予算編成と連動するようなものの中にはございます。そういった意味でも中間年度と、今回の効果検証は非常に大切であるということでございます。先ほど、検証結果を聞かせていただきました。やはり2年目になると検証の評価が変わるというものも当然出てくるわけでございます。事前に資料をいただいておりますので、例えば27年度、昨年度に評価を受けたものがどう対応するかということもあろうかと思う、今日ご審議いただきました43の施策の内、昨年度の総合評価結果で△(見直しが必要)だと判断されたものが6つございます。市の方でどのような見直しを行って、今回どのような評価を受けるのか注目していたわけでございますけども、結果は今公表されたとおり、一つを除いておおむね、○(継続)という評価でございます。期待を込めてというものがあったようではございます。これはPDCAサイクルが総合戦略の深化、発展に繋がっていくということを実感したということでございます。

それから、事務局のみなさんにご提案ですけれども、戦略に4つの基本目標がありますけれども、それぞれに数値目標を掲げられております。その内の一部は、本日もご審議いただいた具体的な施策のKPIと同じようなものもございます。ただ、基本目標の数値目標を達成するためには、施策を実施していく、これは必ず連動するということでもありますので、基本目標の数値がどういう内容か、現時点でどういう進捗よく状況になっているのか、こういったことを同時並行で具体的な施策の評価について議論するというのも大切だと思いますので、事前に皆様方にそういったご説明をすれ

ばもっと良かったかなと思います。

それから、一部の施策はそうなのかもしれませんが、総合戦略の改訂に際しましても、縦割り施策の排除というものが理由の一つとして挙げられております。日程や時間の制約は当然あるのかとは思いますが、テーマによってはそれぞれのグループに関連するものがありますので、複数のグループが集まって、検討や意見交換をする、そういった時間帯があっても良かったのではないかなというふうに思っております。以上です。

【アドバイザー：国立大学法人金沢大学大学院 高山純一 教授】

羽咋市のこれまで2年間の取り組み、今年度の目標、それぞれを見ますと、最初に市長の話にもありましたし、事務局の説明にもありましたけれども、資料1でいうと、仕事をいかに作り出して、それによって人を呼び込む、それが地域の活性化に繋がっていき、さらに活性化していく、人口減少を抑制しようと、こういう取り組みで今回の創生総合戦略事業というのが行われている。

羽咋の場合は、4つの大きい基本目標を掲げています。最初が、安定した雇用と魅力ある仕事をいかに作るかということだと思いますけれど、いくつも事業がある中で特徴的な目玉はおそらく2つかなと。

一つは、自然栽培であり、一つがジビエになっているだろうと私は思います。まだまだ、自然栽培の農産品に対する評価が、全国的に見ても知られていないといった失礼ですけど、もう20年、30年定着してきた有機栽培はみなさんよく知っていて、有機栽培だったらちょっと値段が高くて体にも良さそうだし、農薬を使っていないし、化学のものも使っていない、有機肥料でやっているという、一般的にみてもそういうことがありますので、買っていただける。では、自然栽培はどうなのかと考えたときに、羽咋だけで自然栽培農産品の良さをPRするのは非常に難しいのかもしれませんが、やはりセットで考えていかないと、自然栽培米が800円とか1200円とかこういう金額ですよ、普通で言うと、うちのコシヒカリなんか絶対売れませんか、考えてみたら。1kgだと200、300円くらいです。きっと10kgで3,000円とかそんなもんですからね。普通のお米で1kg300円程度の、3倍なり4倍で売ろうということですから、いかにこの自然栽培がいいのかということのPRすることが、本当は一番大事な点かなと、それがある意味少し抜けている点かなと思います。

ジビエについては、これは随分マスコミも取り上げてくれますし、テレビでもやっていたけど、県庁の食堂でジビエを使ったハンバーグ320円、安いのか高いのかわかりませんが、そういうニュースがやっていました。そういう意味では、ちゃんとPRが進んでいますし、石川県内で7,000頭くらい捕れたと、おそらくこれからもっと増えると思います。そういう意味では、ジビエの方はうまくやれば、先ほど課題がありましたけど、いかにきちんと処理できるかどうか、人手不足も含めて課題では

ないかなと思います。

2番目の新しい人の流れを作る、移住・交流というところですけど、これもおそらく移住ということを考えると、やはり、羽咋がどれだけ住みよいところかということもPRするのが一番大事でしょうし、それを体験してもらうようなことも一番大事なのかなと、交流ということ言えば、観光ということになりますが、観光で一番の課題は、年間を通して観光客をいかに誘致するかということですよ。

それと、もうひとつ課題なのが、どちらかというところ、羽咋は一般的に通過型の観光と言われていて、それをどう滞在型に変えていくか、もっと言うと、宿泊型に変えていくかということにポイントがあるのだらうかなと思います。あまり宿泊施設、羽咋は多くなさそうなので、そこはどのような観光のタイプを目指すのかということをもう少しはっきりさせておかないと、今は交流人口拡大というふうにはしているだけではなかなか明確ではないのかなと。そういう意味では、おそらく観光戦略や移住の戦略を考える上で大事なのは羽咋の魅力、強みがどこにあるのかをきちんと評価をした上で、逆に弱み、どこが弱点なのかということもきちんとおさえた上で、戦略を考える。戦略を考えるとき、普通、SWOT分析という分析方法を使いますが、それを市が考えればいいのか、地元で考えればいいのかわかりませんが、そういうのを一度ワークショップでやってみるというのもひとつかなと。その目玉になるのが、7/7にオープン予定になっていた「道の駅のと千里浜」、ここだと思います。

これは先ほどの雇用にも絡みますし、交流人口の拡大にも絡むので、ひとの流れというものをいかに生み出すか、非常に期待もできるし、おそらく今まで以上に羽咋に入ってくる観光客なり、他の市町の人たちも含めて、もの珍しきで来てくれると思います。ただこれがずっと継続できるかどうかはその中でどういうようなものをサービスするかというところが一番問題ですから、そこは季節ごとにきちんと準備をすることができるとかがポイントかなと思っています。

3番目の若い世代の結婚・出産・子育てということだと思いますが、これはなかなか難しく、最近ではどんどん晩婚化が進んでいますし、結婚してもなかなか子どもを作らない、昔みたいに5人、6人の兄弟というのは少なくなって、最近は一姫二太郎の2人くらいが標準的です。学生を見ても一人っ子が非常に多いです。2人でも長男長女が多いわけで、3人、4人というのはめったにいません。そういう意味ではそういうふうには育てられる環境をいかに提供するかということがポイントですけど、これはどこも一所懸命苦労してなかなか正解はないのかなと。

先ほどの婚活というのはネーミングがよくないのでちょっと変えるという話もありましたが、なにより移住も考えれば、羽咋は非常に教育レベルが高いというふうにも言われ、石川県全体がそうですから、そこをもっとPRすればいいのではないかと。羽咋で子育てをすれば、いずれ教育にも関係しますから、そういうことが非常にいいというのが大事かなと思います。

最後4番目、地域づくりということですから、おそらくすべてに関わってきます。ただやはり人口が減り、公共のウエイトが相対的に悠久公共施設をどう生かすかこれからおそらく維持管理も含めて市町村、地方自治体にとってみれば非常に大きな課題になっていくはずです。これを、私の専門は土木ですので、社会基盤の維持管理に非常に興味がありますけど、それ以外でも例えば、西野先生は、学校は将来的には1校で十分なくらいの子どもしか生まれないとか育たないとか、それぐらいの人口になってしまう、そう考えると今ある小学校なり、中学校なりが空いてくるわけです。そういうものをどう生かすのか、もちろん小学校、中学校だけではない、公共施設全般ですけど、それをどう活用していくかということが非常に大きな課題で、そういう意味では行政だけでは活用できませんから、PPPとかPFIとかそういう官民の力をいかにうまく使うかというところがポイントになると思います。

あと2年先の5年までという話ではないですけど、この計画そのものはずっとそれ以降も継続していかないと羽咋のまちそのものがもたないということになるので、そこはやはりしっかり考えていかないといけないのかなと。ただ、地域づくりの中で評価したいのが、健康診断の件数、人数が増えたというのは、メタボ対策、生活習慣病対策に非常に大事なことで、他の市ですけど、国民健康保険のデータ、KDBを分析しますと、1年間の医療費の支出額の1人当たりの平均値が健康診断を受けていない人、1回受けている、2回受けている、3回受けている、4回受けている、4年間のデータしかないなので、それで比較すると特に65歳以上の高齢者の場合は確実に健康診断を受けている方が、平均値として医療費の支出が減ってきています。これは具体的なデータとしてあります。言ってみれば、きちんと健康診断を受けるということが、自分の健康に対する意識を高めるということに繋がって、それが普段の生活、食習慣、生活スタイルが変わって、健康に繋がるとこういう因果関係がありますので、これはぜひ続けていっていただければなと思います。網羅的なコメントになってしまいましたが、以上です。

6. その他事務局からの連絡事項

(略)

7. 閉会